

ともしび

茨城東組・茨城西組共催の

慶讃音楽法要について



井上直之

(釋直道)

今年、京都の御本山西本願寺で「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が営まれ、4月25日・26日、家族、ご門徒の皆さまと一緒に14名でお参りさせていただきました。

御影堂でお勤めされた壮大な法要や、特別公開された国宝飛雲閣を皆さまと拝見し、とても有意義な団体参拝になりましたことをご報告させていただきます。

なお、別の日程で、門徒推進員、壮年会、婦人会、それぞれの代表者が参拝いたしました。

そして、この法要を記念して、来年の6月22日(土)に茨城東組・茨城西組共催の慶讃音楽法要が水戸市民会館で計画されています。

声明、雅楽、歌が入った音楽法要が執り行われ、私はその法要の指揮者として舞台上に立たせていただきます。

宗願寺からは大型バスで参拝に行く予定です、興味のある方

は是非お声がけください。

さて、気づくと早いもので、長女は小学2年生、次女は幼稚園の年長となりました。

去年、報恩講の新聞で子どもたちが「天国・地獄」に興味を持ち出したと書きましたが、最近は一層知恵がついてきました。

ある日次女が「神さまはいい人を天国に行かせて悪い人は地獄に落とすの?」と聞いてきたので、

私が「そうみたいだね」と言うのと「じゃあ仏さまは何をしてくれる人なの?」と聞くのです。

なので私は「その地獄へ行く人を救ってくれる人だよ」と答えました。

以前こんな話を皆さまにしたことがありますが、新潟での仏法の研修会での講師のお話でした。

温泉旅行に行ったおばあちゃんが朝起きると「あなた、眠っているよ」と友達に言われ嬉しくなり、

帰りがけに菩提寺の住職にその話をしたら「だから何だ!」と言われてショックを受けました。

しかし、後日おばあちゃんに任職に「私は自分が褒められたという事はよく考えていました。恥ずかしい限りです」と伝えました。住職は「よかつたなあ」と仰ったというお話です。

お念仏申す偉い自分に気づいた尊さよりも、褒められたいあるがままの自分に気づけたお念仏は尊いのです。

なぜなら、消せない煩惱(欲望)にいつも苦しんでいる私たちだからこそ、必ず救うぞという仏(阿弥陀如来)さまの願いがはた

らいているからです。その浄土真宗のみ教えをあきらかにしてくださいました親鸞聖人を偲び、報恩講をお勤めさせていただきます。

コロナの影響で中止していたお齋も再開しますので、皆さまにお会いできることを楽しみにしています。

合葬墓「俱会一処」(ともに会える世界)には、毎年、3月の第1日曜日の「永代経」に門信徒の皆さまとともに参りいたします。

お盆やお彼岸にはご縁の方々がお参りされています。

お参りのないお墓は寂しいものです。合葬墓なら、お花やお線香が供えられ、時にはとても賑やかです。

納骨を希望される方は、ご相談ください。

合葬墓の整備について

前住職が、入るお墓のない高齢者や、お墓の後継者のいない方々のために本堂裏に合葬墓「俱会一処」を建立したのはずいぶん前のことです。

ひっそりと目立たない存在でしたが、近年墓じまいをされる方が増えて、遺骨でいっぱいになってしまいました。納骨を希望される方が後を絶たず、拡張工事をする事になりました。

その間、後継者不在で墓じまいを希望されていた西家の墓所を、2基目の合葬墓とすることを、ご親族の方と相談して決めました。

完成した「俱会一処」の建碑式は、3月5日の永代経法要の後、住職の読経と皆さまのお参りで、無事に勤めることができました。

合葬墓「俱会一処」(ともに会える世界)には、毎年、3月の第1日曜日の「永代経」に門信徒の皆さまとともに参りいたします。

お盆やお彼岸にはご縁の方々がお参りされています。

お参りのないお墓は寂しいものです。合葬墓なら、お花やお線香が供えられ、時にはとても賑やかです。

納骨を希望される方は、ご相談ください。



3月5日 建碑式

電話不通のお詫び

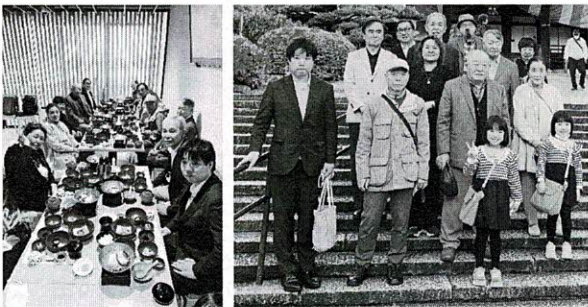
この夏は、お寺の電話が3回繋がらなくなり、皆さまに大変ご迷惑をおかけしました。

最初はカミナリが原因でした。それが直って喜んだのもつかの間、2回目は7月20日から8月5日までの長期間不通となり、連絡がつかなくて駆けつけてくださる方々への対応に追われました。

3回目は9月末から10月6日まで。インターネットも不通なので、様々な活動に支障をきたしました。混んでいるとのことで、NTT

がなかなか工事に来てくれないことが、不通が長引いた原因です。ご心配をおかけして申し訳ありませんでした。

「秋嶺忌」前住職・前々住職法要
11月5日(日) 午前11時
成道会法要・ミニバザー
12月10日(日) 午前11時半
修正会
1月1日(月) 午前10時
御正忌報恩講・新年会
1月13日(土) 午前11時
立春拝賀式・仏婦新年会
2月4日(日) 午前11時
永代経
3月3日(日) 午前11時



京都にて



2基目の「俱会一処」

世界仏教婦人会大会

5月10日〜12日まで、東京教区の参拝団に合流して、嘉神、平野、松井、副住職の4名で第17回世界仏教婦人会大会に参加しました。

初日は、教区の皆さんと親鸞聖人のご足跡を辿り、2日目は慶讃法要参拝後に京都国際会館でのワークショップに参加、興味深い催し物が多くて時間が足りませんでした。

3日目はいよいよ大会です。海外や全国各地から集まった仏教婦人会の方々との交流は、初対面とは思えない温かなものでした。

シンガーソングライターちひろさんの美しい声に感動したり、海外の仏婦の方々のコーラスやダンスを楽しませていただきました。

アメリカやブラジルの方の体験発表は特に心に響き、大変なご苦労の中でも仏さまを抛り所として生きる大切さを教えられました。

今日までそれぞれの場所でお寺を守り続けてくださったご恩にも頭が下がります。

同じお念仏のみ教えをいただいているという安心感に包まれた2日間は、私たち4人にとって大変思い出深いものとなりました。

英語が話せなくても大丈夫なの？ 交換用のプレゼントは何が

仏教壮年会

第2土曜日 午後6時

仏教婦人会

16日 午後1時半

宗願寺合唱団の練習

第3日曜日 午後2時半

いいの？ 等々、色々心配しながら参加したことも忘れ、有意義な時間を過ごすことができました。

今は亡き、前住職や元会長の福島きみ子さんは、ハワイやカナダの大会に参加しています。4年後の次回はハワイとのことで、行ってみたいね、と話し合いながら帰路につきました。(由真記)

彩弥と弥那との日々



井上明寿子 (釋妙寿)

私が時々利用する、衣類や雑貨を扱っているお店があります。主に子ども服を見ることが多いのですが、そこは物を売るだけではなく、家庭で使わない紙袋や手提げ袋を引き取ってレジの横に置いておき、買い物をした人が自由に使えるというリサイクルをしています。

ある日、子ども服を買っていた私はエコバッグを忘れたことに気づき、横にあった袋の中からちょうど良さそうな紙袋を手に取りました。その時は少し急いでいたのですが、買った物を詰めながら忘れ物がないか確認し、足早にお店を出ました。

そして家に帰り、洋服を出したときにびっくりしました。中にお香典が入っていたのです。裏には男性の名前と住所が書かれています。

そこで、住職に付き添ってもらって届けに行くことにしました。落とし主は突然の訪問にとでも驚いていましたが、何度も感謝され、喜ぶ笑顔を見て私も良いことをしたと明るい気持ちになりました。

でも、私が男性にした良いことは、み教えから見た「善いこと」ではないのです。心持ちが異なるからです。

私は、お香典を届ければお礼を言われるだろうなと思いましたが、それよりも昨日買った宝くじが当たらないかなと考えていました。自分の名前を言おうかな、とも。

いわば、お香典を返して新しく自分の欲を買ったようなもので、今の凡夫の身が凡夫のまま満足できればそれでよいと思っている。

ということですが、しかし、以前の私なら良いことをしたな、だけで終わっていたとも思います。

み教えを聞かせていただく、自分が考えていた善悪がずれていたことに気づかされます。同時にありがたいと思わずにはいられません。

大きな信心を得る身になるまではまだまだ時間がかかりそうですが、これからも手を合わせ続けたいと思います。

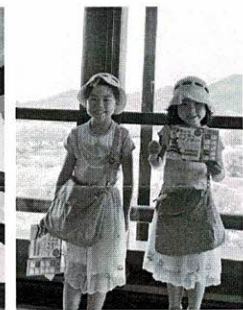
なお、お香典の裏には住所と名前、そして電話番号を書き添えることをお勧めいたします。

今回は「彩弥と弥那」のことでなく、自分の気づきを綴ってみました。ふたりを見守ってください。皆さまのために写真を載せます。

子どもたちの夏休みの思い出です。高齢の親類に会いに九州へ行った時の阿蘇でのスナップと、それを描いた彩弥の絵です。



水彩画



彩弥(左)・弥那(右)

成道会ミニバザーについて

ダーナ献金のための成道会のバザーは、以前のような規模で開催することは難しいです。

コロナとインフルエンザ、感染症の流行がまだ収まりません。亡くなったり、体調が悪かったり、活動する婦人会の人数が減ってしまいました。それらふたつの理由で「ミニバザー」といたします。

ケーキやおはぎ、お弁当等、食べ物、予約していただけます。詳細はお寺までお電話ください。

12月10日(日) 午前11時半〜
本堂にて「成道会法要」
正午〜集会所にて
「バザー」と会食・コーラス

編集後記

生まれて初めての入院、手術から8カ月たちました。元気に生活していますが、手術した右肩がまだ完全ではなくて、髪を結んだり服を脱ぐことが大変です。

酷暑の夏、身近にコロナの陽性者が出て、緊張しました。昨年の今頃は私たちが感染して、お寺を10日間閉めていました。今では、コロナの情報にも落ち着いて対応できるようになった気がします。

お寺は少しずつ以前の活動を再開しました。そして、自由に会えなかったこの3年の間に、何人かの仲間が亡くなったことを実感しています。

「俱会一処」ともに会える世界が用意されている……でも寂しい。煩惱真つ只中のこの身なのだから仕方ない、と自分に言い聞かせながら、お念仏申します。

不安はありますがバザーを開きます。ご協力をお願いいたします。仏婦、仏士の会員以外の方は、私まで連絡をお願いいたします。

合掌

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(由美子)
(印刷所・阿部印刷)

宗願寺ホームページ



宗願寺ウェブサイトURL
<https://souganji.com/>